

原爆ドーム世界遺産登録25周年 世界の平和記念碑 原爆ドームの軌跡

原爆ドームが世界遺産に登録されてから今年で25周年を迎えます。核兵器による被爆後の惨状をそのまま今日に伝える原爆ドームの歴史をたどります。
◎世界遺産への登録・募金運動については、平和推進課(☎242-7831、☎242-7452)、保存工事については、公園整備課(☎504-2393、☎504-2391)

1 広島県物産陳列館の誕生

明治から大正にかけて、産業の振興などを目的に、全国各地で物産陳列館が建てられていました。当時の広島は、日露戦争を機に急速に人口が増え、大量の軍需品が地元で調達されることによる好景気に沸いていました。そのような背景の中、さらなる県内産品の開発、品質向上、販路拡大の拠点施設として、大正4(1915)年に原爆ドームの前身となる広島県物産陳列館が元安川の河畔に誕生しました。

設計者はチェコ人の建築家ヤン・レツルで、一部鉄筋コンクリートで補強したレンガ造りの3階建て。正面中央部分は5階建ての階段室となっており、その上に鉄骨に銅板を張った楕円形ドームが載せられた印象的な姿は、広島の名所の一つになりました。

県内外の物産の収集・陳列、商工業に関する調査・相談などのほか、博覧会や美術展、講習会などの会場としても親しまれ、大正10年には広島県立商品陳列所、昭和8(1933)年には広島県産業奨励館に改称されました。



- 1 建築工事中の物産陳列館(大正3年)
- 2 広島の名所として発行された彩色絵葉書
- 3 敷地内には、八方から水を吐く噴水を備えた洋式庭園と、あずまのあたる和風庭園が造られました
- 4 竣工と同時に開催された広島県物産共進会の会場となり、ライトアップされた同館。40日間にわたって県内の生産物をはじめ、全国から集められた多数の出品物が展示されました(大正4年)
- 5 館内が写された貴重な一枚。大正10年に開催された第4回全国菓子給大品評会では、日本各地や朝鮮半島、台湾から3,000点以上の名菓が集い、即売、試食会が行われ、連日数万人の来場者でにぎわいました

2 産業奨励館から原爆ドームへ

その後、産業奨励館は、広島産品の販路拡大を目指し、大連・ハルビン・天津・上海などに事務所を置き、海外輸出の窓口となっていきました。

しかし、国家総動員法*などで貿易統制が強化されるようになると、広島以外の事務所は閉鎖、館内の催しも聖戦美術展覧会など戦時色の強いものになっていきます。業務は次第に縮小され、昭和19年3月に廃止に至ります。その後は、内務省中国四国土木出張所や広島県地方木材株式会社などの事務所として使用されました。

昭和20年8月6日、原子爆弾が産業奨励館の約160m南東の上空600mで炸裂しました。館は大破・全焼し、建物の中にいた職員は全員即死したといわれています。しかし、爆風を上方からほぼ垂直に受けたため、壁の厚い建物の中心部は倒壊を免れ、昭和20年代後半には「原爆ドーム」と呼ばれるようになりました。



6 昭和20年11月に米軍により撮影された原爆ドーム(平和記念資料館提供)

3 撤去か保存か

復興が進むにつれて、修学旅行生や外国からの観光客も訪れるようになり、被爆当時の姿をとどめる原爆ドームは、原爆の被害を伝える象徴として注目を集めていきます。

昭和24年に平和記念公園を設計した丹下健三氏は、二度と人類が原爆を使用しないために、シンボルとして残すべきと考え、100メートル道路(平和大通り)から陳列館(現平和記念資料館本館)、慰霊碑を通した直線上の正面に原爆ドームを望めるように設計したと語っています。その一方で、倒壊の危険性や保存にかかる経費、悲惨な記憶を思い出させることなどから撤去を望む声もあり、長らく結論を出せずにいました。

そうした中、1歳で被爆し16歳で急性白血病で亡くなった楳山ヒロ子さんが残した日記に、「あの痛々しい産業奨励館だけが、いつまでも、恐るべき原爆を後世に訴えてくれるだろう」(要旨)と記されていたのをきっかけに、広島折鶴の会による保存署名運動が始まりました。保存を求める声が高まっていく中、昭和40年に原爆ドームの強度調査が実施され、保存は可能との結論が出されました。



- 7 被爆から10年後の8月6日(昭和30年)
- 8 浜井市長の案内で原爆ドームを見学するシアトル市長夫妻。当時はすぐ近くまで入って見学することができた(昭和26年)
- 9 昭和30年の平和記念式典。原爆死没者慰霊碑の背後にまだ数軒のバラックが残る(明田弘司氏撮影)

4 原爆ドーム保存募金

強度調査の結果を受けて、市議会は、原爆ドームを完全に保存し後世に残すことは、原爆で亡くなった人々に対しても世界の平和を願う人々に対しても、我々が果たさなければならない義務とする決議を可決しました。

市は、保存工事費として積算された約4000万円を、国内はもちろん国際的にも平和を願う一人でも多くの人々の協力を仰ぐとして、募金運動を開始。街頭募金をはじめ、広く呼び掛けた結果、最終的に、国内外から目標額を大きく上回る約6800万円が寄せられ、最初の保存工事が行われました。



10 浜井市長自ら街頭に立ち原爆ドーム保存を呼び掛けた(昭和43年)

5 未来に残すための保存工事

昭和42年4月から8月5日の完工式まで続いた保存工事では、レンガ壁の亀裂に樹脂を注入して壁全体を固め、要所を鉄骨で支える補強作業が行われました。工事の費用は全額募金により賄われ、残額は公園の周辺整備などに利用されました。保存工事完成記念として東京・名古屋・大阪・仙台・札幌・北九州で開催されたヒロシマ原爆展では、被爆者の遺品や被爆直後の写真などが展示されました。

それから20年後の現状調査で劣化の著しい箇所への補修が必要となり、平成元(1989)年に2回目の保存工事が行われました。耐久性を持続させるため、ひび割れへの樹脂注入や建物全体の防水塗料吹き付けなど劣化防止を主とした工事の費用の半分以上が募金によって賄われ、残額はドームを後世に継承するための保存事業基金として積み立てることになりました。

その後も、現状を保ちながら後世に伝えていくため、おおむね3年ごとに劣化を知るための健全度調査を行い、平成14~15年、27~28年、令和2(2020)~3年に保存工事が行われています。



11 鉄鋼で支えられたドーム内部(昭和42年)

12 ひび割れへの樹脂注入作業の様子(昭和42年)

6 世界文化遺産登録へ

平成4年、世界遺産条約への加盟が国会で承認されると、市は「原爆ドームを世界遺産に」という考えを表明します。しかし、世界遺産に推薦されるには、国の文化財(史跡)として保護されていることが条件でしたが、当時の史跡の指定は明治中期までで、それ以降のものは例がありませんでした。

そこで、市や市議会、県内市町村などは要望書や意見書などを国へ提出し、市民団体による世界遺産化を求める署名運動も始まりました。全国から約165万筆の署名が寄せられ、世界遺産化に向けた機運は高まっていきました。それを受けて、平成6年に世界遺産化の請願は衆参両院で採択され、平成7年、史跡指定の基準が改正され、原爆ドームは世界遺産推薦の前提となる国の史跡に指定されました。

同年9月、国は原爆ドームの世界遺産登録推薦書を世界遺産委員会に提出、翌年12月5日、メキシコで開催された世界遺産委員会で、原爆ドームはついに世界遺産一覧表への登録が決定されました。

その登録名は「Hiroshima Peace Memorial(Genbaku Dome)」。核兵器廃絶と世界恒久平和の大切さを訴える平和記念碑としての原爆ドームの意義を表しています。

原爆ドームのおゆみ

| | | |
|------------|-----|--|
| 1914 (T 3) | 1月 | 広島県物産陳列館建築工事起工 |
| 1915 (T 4) | 4月 | 完成 |
| | 8月 | 閉館 |
| 1921 (T10) | 1月 | 広島県立商品陳列所と改称 |
| 1933 (S 8) | 11月 | 広島県産業奨励館と改称 |
| 1944 (S19) | 3月 | 産業奨励館の業務を廃止。官公庁などの事務所に転用 |
| 1945 (S20) | 8月 | 原子爆弾により大破・全焼 |
| 1949 (S24) | 8月 | 広島平和記念都市建設法公布。平和記念公園及び記念館競技設計の入選作決定。原爆ドームを基軸とする公園の概要が固まる |
| 1953 (S28) | 11月 | 県から市へ譲与 |
| 1956 (S31) | 4月 | 平和記念公園供用開始 |
| 1960 (S35) | 8月 | 広島折鶴の会による保存署名運動始まる |
| 1965 (S40) | 7月 | 強度調査を開始 |
| 1966 (S41) | 7月 | 市議会、原爆ドーム保存を決議 |
| | 11月 | 原爆ドーム保存募金運動開始 |
| 1967 (S42) | 4月 | 第1回保存工事開始(8月まで) |
| 1989 (H 1) | 10月 | 第2回保存工事開始(翌年3月まで) |
| 1992 (H 4) | 9月 | 市議会、原爆ドームの世界遺産化を国に求める意見書を採択 |
| 1993 (H 5) | 1月 | 市や県内市町村などが要望書などを国に提出 |
| 1995 (H 7) | 6月 | 国の史跡に指定される |
| | 9月 | 市、原爆ドーム及び平和記念公園周辺建築物等美観形成要綱を制定。国、原爆ドームを世界遺産として世界遺産委員会に推薦 |
| 1996 (H 8) | 12月 | 世界遺産委員会で世界遺産一覧表への登録が決定 |

* 昭和13年に制定。これにより、戦時における人的、物的資源の統制、運用が議会の承認を受けずに行うことができるようになった
※ 掲載写真のうち 6 9 以外は公文書館所蔵です

広島市の平和の歩みについて もっと詳しく知りたくなったら

被爆70周年事業として、明治の広島市誕生から、被爆前の広島、被爆後の惨状と復興、そして現代に至るまでを振り返る、「広島市被爆70年史あの日まで そして、あの日から 1945年8月6日」を発行し、販売しています。

【仕様】 A4判 800頁 映像編(DVD)付属
【価格】 3,970円(税込み)
【販売場所】 公文書館、平和記念資料館、区政調整課
※公文書館では郵送も対応しています。詳しくはお問い合わせを
公文書館(☎243-2583、☎542-8831)

